

横尾議員 それでは、重要課題である役場庁舎移転への取り組みについて質問をします。杣富町長就任後の令和元年6月議会で、町長は課題解決に向けての所信表明において、「検討委員会からの答申を尊重し、議会・住民の意見も聞きながら進めたい」と表明され、その議会での二人の議員からの関連する通告書に対しては、「候補地選定にあたっては、この報告書を基本に進めたい」とも答弁されています。また、本年3月議会では、「財政状況を見ながら検討する」との行政報告でありました。検討委員会より答申がされてから、すでに3年近く経過しています。耐震化ができていない現庁舎で、業務をしているスタッフに対しては生命に関することであり、早急に取り組まなければならない課題であると考えますが、現在の取り組み状況はどうか、お伺いします。次に大戸地区の環境調査の進捗状況についての質問です。大戸地区での残土処理には環境調査が必要であると報告を受けていますが、本年3月議会で質問を受けて町長は、「県と許認可等について引き続き協議を行っていききたい」との答弁でありました。これまでに県と何回どのような協議をしてきたのか、具体的な中身や協議をした結果はどうであったのか、今まで議会には報告がありません。それから環境調査に係る費用はいくらになるのか、及び調査期間はどれ程かかるのか。町はこれらについて把握できているのでしょうか。また、残土処理後の土地利用については、事前復興計画用地として考えられますが、大戸地区は国定公園内であり法的に問題はないのでしょうか。この土地利用について、県の見解や申請手続き等の手順はどうなるのでしょうか。最後の質問に移りますが、ふるさと納税にもっと注力すべきではないのでしょうか。本年3月議会で町長は、「2年連続での赤字決算の見込みであること、令和2年度はさらに緊縮財政に努め事務事業や行事等の見直しも考え、云々」等々の行政報告でありました。しかし、重要課題解決には予算が必要不可欠であり、目的達成のためにはふるさと納税に注力すべきであると考えますが、いかがでしょうか。コロナ禍の中、事業者の【新生活様式】へと対応がなされていく状況において、ふるさと返礼品が今後増えていくのではないかと期待をするものです。以上ご答弁願います。

一山議長 杣富町長。

(杣富町長 登壇)

栴富町長 横尾議員のご質問の役場庁舎移転への取り組みについてお答えします。役場庁舎移転につきましては、多額の事業費を要します。本来、庁舎を建設するときは、何年も前から資金計画を立てて、建設資金を積み立てるなどするものです。牟岐町の財政は、徳島県の新海部病院の造成工事に伴う借金返済が本格的にはじまり、財政的に非常に厳しい状況にあります。新庁舎建設の基金を積み立てていないことから、全額借金で建てなければならない状況です。有利な起債としまして、津波の浸水区域から浸水区域外へ庁舎を移転する場合に対象となります、緊急防災減災事業債がありますが、これは令和2年度までとなっています。庁舎建設には、4、5年かかりますことから、このような起債が5年以上存続することが決まらないことには、事業着手できない状況です。この緊急防災減災事業債の延長を期待しているところです。次に大戸地区の環境調査の進捗状況についてお答えします。現在、かんば地区の残土処理場の計画について進めています。大戸地区残土処理場の県との協議につきましては、令和2年3月議会で榎谷議員の質問にご答弁以降できていません。皆さん、ご承知のとおり、この3か月ほどは、新型コロナウイルス感染症対策、また、外出自粛、緊急事態宣言の発令等々、協議できるような状況ではありませんでした。この分につきましては、ご理解いただけるものと思っています。大戸地区につきましては、室戸阿南国定公園内であり、自然公園法にかかる許認可につきましては、事業計画、申請内容につきまして協議し、目途がつけば環境調査をしていきたいと思っています。環境調査費用につきましては、見積額1,400万円、調査期間につきましては、1年程度かかる見込みです。この点につきましても、やはり財政状況をみながらということになりますので、ご理解のほどよろしくお願ひします。次に、ふるさと納税に注力すべきでは、についてお答えします。牟岐町の歳入は、町税、使用料、寄付金などの自主財源と地方交付税、国費、県費などの依存財源の2つに大別されます。当然、自主財源が多い方がよいのですが、現状は、依存財源に頼っている状況です。ふるさと納税の平成30年度は489万2千円、令和元年度の総額は575万円でした。毎年少しずつ増えていますが、十分ではありません。ふるさと納税の成否は、返礼品を提供していただく事業者の数と提供していただく品目により大きく左右されています。牟岐町で現在ご協力いただいているのは、6事業

者のみです。返礼品提供事業者を増やしていかなければ、これ以上の寄付金額の上積みは望めないものと考えています。ふるさと納税に注力していくためには、商工会をはじめ各事業者のご協力が不可欠です。何卒ご協力のほど、よろしく申し上げます。以上です。

一山議長 横尾議員。

横尾議員 杵富新町長になって、今年2年目になります。就任時においては、初めての町長職ということで、いろいろと新しく覚えることも多かったと思いますが、2年目となった今年度からは、重要課題解決に向けて、ぜひともコマを進めていっていただきたい。残念なことに今議会での所信の中では、課題解決に向けての言葉が一言もありませんでした。町長がおっしゃられる財源難盾に1つも事業が進んでいないということは、先ほどもありました庁舎建設に当たって、役場職員の皆様はどういう考えでおられるのか、早く道筋を、資金計画を立てて、こういう手順でありますというふうなお示しをすることが一番重要ではないかと、みんな財政難は重々分かっている中で、そういうことがあえて必要ではないかと考えます。それから、大戸地区での環境調査につきまして、今、町長が答弁されました、公園内での土地利用について協議を、ここ3か月ほどは、コロナ禍の中でできてないとおっしゃられていますが、これが目途つきしだい、これも残土処分場がぜひ必要であると考えますし、質問の中で事前復興計画用地、高台に移転する仮設住宅の建設用地であるというふうな用途が考えられる中、これは防災にもつながっていくことでありますので、一刻も早く協議を進めていっていただきたい。このように思います。あとふるさと納税につきましては、商工会等とかも何回も説明会を開き、町もやっていますが、しかし、実績も少しずつであります、やっと500万円代に乗ったということですが、しかし、人口規模3,700名の高知県の芸西村では、今年2月の副議長との懇談の中で、芸西村では5億円に達しているというふうな実績があります。そういう高額なふるさと納税を納められている行政等とかも見本に研究されて、まして今回、ふるさとパックの中で販路が先細っていると、出荷ができないというふうな事業者を拾い上げて、新しくふるさと納税の返礼品に加わっていただくように、行政の方の職員も声掛けをするなり、広報するな

りしていくべきであると考えますが、もう一度、私の再問を受けて、町長の答弁をいただきたいと思います。

一山議長 枳富町長。

(枳富町長 登壇)

枳富町長 横尾議員の再問にお答えします。重要課題である役場庁舎移転への取り組みにつきましては、今、本当にお金がありません。ない袖は振れません。やりたくてもやれない状況です。ご理解いただきたいと思います。そういうことですので、緊急防災減災事業債が延長になれば、取り組んでいきたいと考えていますので、また、そのときにはご協力の程よろしくお願いします。大戸地区の環境調査の関係で、防災にも使えるようにということです。また、そちらも以前そういう話で進んでいましたので、今回も県の方ともそういうことも含めて協議をしていきたいと考えています。よろしくお願いします。芸西村の5億円のふるさと納税、それに行政の職員も含めて一緒に探していこうということです。それはもちろん、いろいろご協力はさせていただきますので、また、商工会の方々には、さらなるご協力をいただき、ご指導をいただけたらと思います。よろしくお願いします。

一山議長 横尾議員。

横尾議員 庁舎移転につきまして、今、町長からありました、緊急防災減災事業債、これに関して延長ができるのであれば、我々、議員も含めて陳情とか要望に行きたいと思っていますので、どうぞその方向で進めていただきたいと思っています。それと、ふるさと納税、これは、今、観光協会が動き出した関係で、観光協会でもそういうふうな、ふるさと納税、ふるさとパックが基本となりますが、今、学生支援の中でふるさとパックという事業をやっています。そういった中で、先日の観光協会の役員会の中では、漁業組合の方から荷物を出したいと、出荷したいという旨もありましたので、そういう情報も拡がってきているので、そういうところを拾い上げて実際に観光協会に手伝っていただきなが

ら事業者を増やしていただきたい。そういうふうを考えます。どうぞよろしく
お願いします。質問を終わります。